

新しい才能を見つけ、未来に繋げる写真雑誌

別冊付録 写真を学べる大学 & 専門学校ガイド 2017

P
HAT

PHOTO

100
Issue

Vol.100 7-8月号

FEATURE

伝説の写真家

深瀬昌久

ソール・ライター

柳沢信

東松照明

中平卓馬

飯田幸次郎

鈴木清

平敷兼七

マルティン・チャンピ

アルノ・ラファエル・ミンキレン

ヨゼフ・ステク

マリック・シディベ

張照堂



熊谷聖司 橋本照嵩 兼子裕代 ロジャー・バレン×アスガー・カールセン

国際フォトフェスティバル

T3 PHOTO FESTIVAL TOKYO レポート

橋本照嵩・『瞽女』

文=小倉快子 (BOOKS f3) Yasuko Ogura



瞽女という言葉を聞いたことがあるだろうか。ひと言でいうと、三味線を弾き、唄を歌い、各地を巡る盲目の女芸人のことだ。全国各地で活動していたが、中でも新潟は地域ごとに瞽女集団が形成されていた。明治はじめ頃、新潟県長岡地方には400名ほどいたと言われている。橋本照嵩さんがはじめて瞽女さんに興味をもったのは、1969年に高田瞽女の杉本キクイさんが国の無形文化財になったという記事を見たときのこと。

「読んでいて、これだと思ったんですね。それで『アサヒグラフ』に瞽女の写真を撮りたいとお願いし、それからすぐに杉本さんに会いに新潟に行きました。そのとき、養女が風邪を引いているから人をあげられないと断られたのですが、長岡にまだ旅をしている他の瞽女さんがいると教えてもらい、飛びつきましたね。翌日、会いに行こうとしたのですが、結局ドカ雪で会えなくて東京に帰ることに。でも諦められませんでした。もう一度行って、瞽女さんの写真を撮りたかった。それから色々な人に会って情報を聞いて、電話をしたり、手紙を書いたり、撮影していいよと言われるまで、結構大変だったんです。でも取り憑かれたみたいに、これしかないと思ったんですよ。」

ようやく許可を得た橋本さんは、1972年の春から2年間、金子セキさん、中静ミサオさん、関谷ハナさんの3人組の長岡瞽女に同行し、撮影を行った。

「瞽女さんは男を連れて歩かないんです。でもついて来るなって言われても、ついていけないわけにはいかないんです

よ。眼の前からいなくなったら撮れないから。何度も、「おらたちと歩くと位が下がる」とか、「写真撮ってもおらたち見えぬすけ、そんなものいらないんだ、とにかくついて来るな」と言われましたね。でも気にしやだめなんです。しばらく村々を一緒に通っているうちに、行動がわかってくるんです。瞽女さんたちは門付け（※1）で「ごめんなんしょ」と玄関から声をかけて、声がしないと留守かと思って次へ行ってしまふ。そういうときに、自分が家の裏に回って、家主を呼んで来たりすると、百発百中で村を唄って回ることができるよう、段々一緒に旅している。男手引き」と言われたりしましたね。そうしているうちに、金子さんが「この人、おらたちの写真撮ってくれる人だすけ」と言ってくれるようになったんです。この関係性が大事なんですよ。そうですね。そうすると、苦から楽になるというか一緒に旅するのが至福の時間になるわけです。一緒に瞽女宿（※2）に泊めてもらったりすると、食事をしていときや風呂に入っている写真が撮れる。それは嬉しかったですね。」

橋本さんが、瞽女さんを撮るときはポイントとして、生活者としての瞽女さん。という視点があつたと言う。それは距離の近さに表れている。2年という歳月を共にし、冗談のような本音のような話で笑いあえる関係を築いた橋本さん。眼の見えない瞽女さんが、まるでそこが見えているかのように歩いたり、座ったり、唄ったりする暮らしの力強さが見事に写しだされている。

はしもとしょうこう
1939年宮城県石巻市生まれ。1974年に写真集『瞽女』（のら社刊）出版にて日本写真協会新人賞受賞。積極的に写真展や写真集を発表している。近著に、『新版北上川』（春風社）、『西山温泉』（蔵くさむら）、（ZEN FOTO GALLERY）などがある。



（※1）門付け／村々の民家の戸口に立って、三味線弾き唄を歌い、お金やお米などを受け取ること。
（※2）瞽女宿／門付けの旅で泊めてもらう宿のこと。庄屋など比較的裕福な家の人が提供することが多かった。